



担い手通信



JA bank Mic

Topic

今月の話題

コンクリート面の農地扱い 通常国会で法改正

政府・与党

政 府・与党は11月7日、農業用ハウス内の地面などため、来年の通常国会で関連法を改正する方針を明らかにしました。非農地扱いとなり税負担が増す現状を見直し、地面はコンクリート張りにして、高設棚で養液栽培するといった農家の経営展開を後押しします。今後、新制度の細部を詰めますが、農業以外への利用を確実に防ぐ仕組みとすることが不可欠となります。

11月7日に自民党が開いた農業基本政策検討委員会で、同委員会の宮腰光寛参与が、農地法などの改正案を来年の通常国会に提出する考えを示しました。

現状は、農業用ハウス等を設置し、地面を全面コンクリート張りにする場合は、非農地扱いとなり、固定資産税が大幅に上がる他、相

続税などの納税猶予も適用対象外となります。こうした、土地を農業生産に活用したくても、税負担が増すため踏み出しにくい状況は、農地法が定める「農地の農業上の効率的な利用を確保する」との目的に合致しない面があるとして、見直します。

一方、農地法では、農地を「耕作の目的に供される土

地」と定めます。そのため農水省は今後、コンクリートを簡易に撤去でき、耕作可能な状態に戻せる場合など、農地扱いにする対象の明確化を図ります。畜舎のためにコンクリート張りをする場合は、耕作目的ではないため対象としない方針です。既に農地転用して、コンクリート張りになっている農家らの存在も踏まえ、いつから農地扱いの対象にするのかも詰めま

す。

地面をコンクリート張りにすると、農業目的外の利用も可能になることから、農業委員会がコンクリート施工の前後で、適正に利用されているかどうかを確かめる仕組みも検討します。

数字でみえる 三重県の農と食

三重県内の集落営農数

東海農政局「東海3県の集落営農」によると、集落を単位として生産を共同で取り組む集落営農の数は三重県で304(2017年2月1日現在)。この内、法人の集落営農数は69と全体の22%を占めています。非法人の集落営農数が減少する一方、法人の集落数は前年から7増加するなど増加傾向です。



304

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。



ピックアップ pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

香酸かんきつ「新姫」果汁中のノビレチン 圧搾搾汁の圧力が高いほど含有量増加

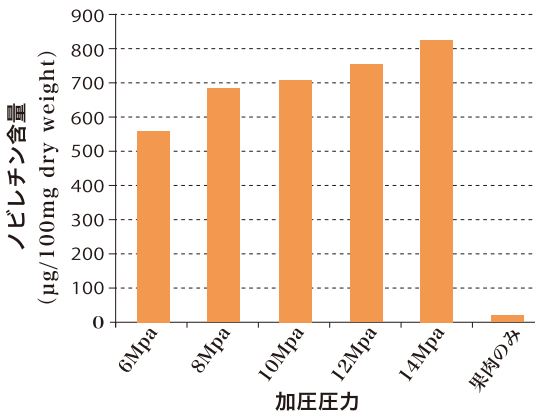
香

酸かんきつ「新姫」を果汁にするため皮ごと圧搾搾汁する際、圧力が高いほど、機能性成分であるノビレチンが多く含まれることを、三重県農業研究所が明らかにしました。ノビレチンは抗ガン作用や血圧上昇抑制などの効果が報告されている成分で、「新姫」を使った機能性強化果汁製品の開発について期待が高まっています。

実験では、市販の圧搾搾

汁器を使い、「新姫」を皮ごと搾汁しました。設定可能な最大圧力の14メガパスカルで搾汁した場合の果汁中のノビレチンの含有量が最も多く、糖度やクエン酸含有量は変わりませんでした。また、果肉のみの果汁よりも、皮ごと使った果汁の方がノビレチンの量が多くなり、果汁色は果肉のみの果汁より、赤味が少なくな

加圧圧力の違いが果汁のノビレチン含量に及ぼす影響



お問い合わせ先 紀南果樹研究室 紀南果樹研究課 ☎05979-2-0008

JAみえきた

抑制トマト選果が最盛 JAみえきた木曾岬選果場

JAみえきた木曾岬選果場で、抑制トマトの選果が最盛期を迎えている。品種は桃太郎系、みそら系、「りんか409」。3等級に分け、4キ箱ケースに詰める。県内や名古屋の市場に日量約2800ケースを出荷している。木曾岬町は県内有数のトマト産地で、県内生産の約4割を占める。2017年度の抑制作は8、9月に天候が良く生育は順調だった。しかし、10月中旬の長雨や台風の影響で、12月中旬に出てくる花数が少なく、収量は例年より少ない見込み。(2017/11/16 ワイド2東海)

JA津安芸

来場者の笑顔で制作 フォトモザイクアート JAまつりで

JA津安芸は11月中旬に開いた「2017JAまつり」で、来場者の笑顔を撮影した写真を集め、フォトモザイクアートを作る。2日間で1000人以上が参加。合併30周年ということもあり、記念に残るJAまつりにしようと、若い世代でつくる「JAまつりプロジェクトチーム」が企画した。フォトモザイクアートは、本店の建物を完成イメージとして作成する。12月11日から、縦2m×横5mの特大大パネルにして展示する予定。(2017/11/23 ワイド2東海)

津市

「一志じねんじょ」出荷スタート 12月下旬までに2ト見込む

JA三重中央管内の一志じねんじょ部会は11月21日、津市一志町の集荷場で特産「一志じねんじょ」の出荷を始めた。村上勉部会長は、初出荷を終えて「今年の出来はまずまず。例年より長さや重さ、形がまとまっていて良いと感じた」と話す。最盛期には日量約325キ超、12月下旬までに約2トの出荷を見込む。「一志じねんじょ」は粘り気が強く、きめが細かいのが特徴。ヒノキの葉とともに化粧箱に詰め、贈答用を中心にJA営農センター一志の店舗や、宅配で販売する。12月10日には、JA営農センター一志で「一志特産じねんじょまつり」を開く。ジネンジョの販売や、おとし汁を振る舞う予定。(2017/11/22 ワイド1東海)

農業を営む すべての方に

今ならJAバンク利子補給制度により、お借入から当初3年間は最大年1%の利子補給が受けられます。

農業経営資金

すべての農業者の 実りある未来をサポートします。

- トラクターなど農業用機械の購入資金
- 栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- その他農業経営に必要な資金

明日の農業を担うみなさまへ JAバンクは地域農業を応援します!

詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。 http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/



平成29年11月現在

金利情報 平成29年11月20日現在

農業経営資金

変動金利 年1.00%

固定金利 年1.50~2.00%

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金

年1.5% (変動金利)